（本號い面）　遞信省認可（明治廿五年三月十一日）　明治二十五年八月六日　（定價金二錢）

時事新報

時事新報は全國中紙面の最も廣き新聞紙なり

時事新報には每號詳細なる商況物價の報告あり

第三千四百十四號
明治廿五年八月六日 土曜日
舊曆壬辰閏六月十四日（庚午）
日出午前四時五十四分　日入午後六時三十九分
月出午後五時二十四分　月入午前一時五十二分
滿潮 午前三時十三分　午後三時四十六分
（西曆一千八百九十二年）

時事新報定價

時事新報は每號八面乃至十二面にして詳細の商況物價報告あり其代價遞送料廣告料は左の如し

一枚二錢○一箇月前金五十錢○三箇月前金一圓五十錢○六箇月前金三圓○一箇年前金六圓○月曜休刊

○時事新報社ヨリ直接ニ遞送スルモノハ右定價ノ外ニ一箇月十三錢ノ遞送料ヲ申受ク

時事新報廣告料（前金）

一行五號活字廿四字詰	一日限	一日以上六日迄	七日以上
一行ニ付	十三錢	十一錢	十錢五厘

本社へ寄送に付

東京府下を始め各府縣に通信社なるものありて是より各新聞社に報道を發送し各新聞社は之を受けて紙面を填塞するより各社同一の記事を掲ぐること寡からず獨り時事新報社は社員並に通信員の多きを以て斯類の社に通信を依頼せずと雖も世間往々此事を知らずして通信社にさへ報道すれば本社にも其報道は達する事と信ずる方多きが如し爲めに行違ひを生じたる場合も寡からざれば本社に記事論說を寄稿せんとする方は直接に本社に向け發送あらんことを請ふ

時事新報

內閣策（昨日の續）

政府の難局を免れざる要點を案ずるに民望の乏くして議會の抵抗に惱まさるゝと情實の因縁纏綿して部內の一致を欠くに在るが如し而して我輩が之に對するの策を議ずるに當り先づ在朝政治家が須く其心事を一轉せざる可らざるを前言する者なり

抑も政府が議會の抵抗に苦むと云ふは何事なるや第一議會に於ては辛ふじて豫算案を成立せしめ第二議會に當ては衝突の末、解散を行ひ第三議會に向ては紛擾の極、停會を命じたるの始末にして其都度內閣の基礎を動搖せしめたること決して一通りならず困却の程は誠に推察に餘りありと雖も議會が斯く無二無三の言行を逞ふして自から自家の信用如何を念頭に掛けざりしは却て政府の爲めに意外の利益なりしと云ふ可し明治政府の當路者は國會開設に先だち其準備の第一たる官民調和の事に頓着せざるのみか維新の功勞と稱して盛榮に誇り虛威橫風以て民心を厭はしめたることなれば天下これに對して好意を表する者とてはなく民間の不評實に甚だしき其證據は苟も政府反對とあれば是非を問はずして喝采を博するの事實に徵しても之を知る可し蓋し盈虛滿缺は人事天事と共に免れざるの常數にして昔しは菅公の賢臣を以てすら猶ほ竄逐左遷の事あり況んや明治政府の功臣なる者に於てをや時平に非ざる國民が菅公に非ざる功臣を咎むるは至極尤なる事にして議會の狂瀾は必ずしも時平一派の爲にあらず當局者が世態人情の如何を究めずして得意に乘じて事物の常數に戾り自から友を失ひたるの結果なれば之を挽回せんこと決して容易ならず吾も人も國の爲めに憂へ政府の爲めに危ぶみたる所にして若しも議會が夫の粗暴に反して着實を旨とし正義を執て徐々に進みたらんには其信用の厚きと共に政府の運命は漸く危殆に傾きて復た救ふ可らざるに至ることならんに議會の無謀なる却て自から信用を損して體面を失ふの拙を爲したりしかば是に於てか世の具眼者は彼と是とを比較して相距る遠からずと認め曾て一言も政府を贊したることなき口を以て往々これに贔負するの談あるに至りしこそ不思議の事相なれ政府は恰も議會の拙なる其蔭に由りて多年の不評判の幾分を除き得たる姿にして此上もなき好機會なれば此際進んで其心事を改め從來買得たる不人望の根源如何を顧み一切の虛威虛榮を去りて民間の士に交るに禮を以てし延いて天下に愛敬を呈し正しく維新前後の簡易率直に立戾りて事に當るときは明治政府は前途猶は多望なりと云ふを得べし勿論我輩は獨り此種の遠計に限りて他策は都て不可なりとするに非ず目前議會に對するの掛引は臨機應變縱橫自在たる可しと雖も此一大改善を斷行するに非ざるよりは百計千謀みな無益の沙汰たる可ければ敢て政府の長所を云々せず唯その欠點の大なるものに就て深く猛省あらんことを勸告するのみ

對議會の策は此の如しと雖も政府部內の不一致を如何す可きやと云ふに若しも當局者にして果して心中より前記の勸告に從ふことを得るとせば一致の策も亦敢て難きに非ず每度我輩の云へる如く一致の難きは漫に政事に過分の重きを置き隨て勢權の消長を以て畢生の榮辱と信ずるに依ることなれば既に彼の虛威虛榮を去るの快濶あらん歟これと共に政事を以て恰も一の走馬燈の如く又芝居の如く視做して平和を圖ること容易なる可し今の內閣は各大臣の協議によりて總理大臣の統一するものなり左れば互ひの間に意見の相違することあるも總理の一たび斯くと決する上は何れも之に依遵して復た異存を唱へざること芝居の舞臺に一場の藝を演ずるものなりと思へば左までの苦痛もなかる可し或は一人の總理の專決する所となりて常に屈從の地位にのみ在りては面白からずとならば更に走馬燈の趣向に倣ひ輪番の如き仕組を以て總理の席に坐することゝなさば一去一來循環して閣議至て圓滑なるを得るに庶幾からんか奇謀を用ひ勢力を植え爭ふて而して取るの舊例にては內閣の一致遂に望みなかる可し

今や內閣の波瀾洶湧して政路一新の時機正に迫れるものゝ如し餘を承け後を善くせんとする者は宜しく其心胸を濶大にして從來の弊害を一掃し政府を輕く視て却て其本色を全ふするの工風こそ肝要なれ熱心の熱度高くして意の如くならず遂に因循姑息に流れて一時を彌縫するが如きは我輩の取らざる所なり

（完）

官報

○第二豫備金支出

明治二十五年度第二豫備金支出

第八回

一金五萬二千二百圓　鐵道線路實測費

本年法律第四號鐵道敷設法ニヨリ鐵道線路ノ實測ヲ要シ本行ノ金額第二豫備金ヨリ支出ノ儀主管大臣ヨリ請求有之本大臣同意ヲ表シ之ヲ上奏シ本月三日勅裁ヲ得タリ

明治二十五年八月五日
大藏大臣伯爵松方正義

○東京府令第六十六號

小笠原嶋出入船舶取締規則左ノ通相定メ來ル九月一日ヨリ施行ス

明治二十五年八月五日
東京府知事富田鐵之助

小笠原島出入船舶取締規則

第一條 小笠原島ヘ入港ノ船舶ハ投錨後十二時間ニ船長ヨリ左ノ事項ヲ同島廳ヘ屆出テ檢査ヲ受クヘシ

一 船名及船形
二 噸數又ハ石數
三 入港ノ主旨及日時
四 運輸品名及其數量
五 解纜地名及其月日
六 船客員數
七 船長及乘組人ノ氏名

第二條 入港船舶ノ內傳染病患者若クハ該病死亡者アリタルトキハ其旨速ニ島廳ニ屆出テ適當ノ消毒法ヲ施シタル後ニアラサレハ上陸又ハ他ノ船舶ト交通スルヲ得ス

第三條 小笠原島出港ノ船舶ハ少ナクモ二十四時間前ニ船長ヨリ第一條第一第二第四第六第七ノ外尚ホ左ノ事項ヲ島廳ヘ屆出テ檢査ヲ受クヘシ

一 仕向先地名
二 出港ノ主旨及日時

第四條 [illegible]ノ運輸品ハ島廳ノ許可ヲ受ケタル後ニアラサレハ之ヲ船積シ若クハ船卸スルヲ得ス

第五條 島廳ハ定期便船毎ニ本規則ニ關スル諸般ノ狀況ヲ詳悉シ之ヲ當廳ヘ報告スヘシ

第六條 本規則第一條乃至第四條ニ違犯シタル者ハ五十錢以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

雜報

○共和國の殿樣 とは合衆國上院の議員なるが同院は亞米利加中にて最も禮儀正しき紳士の俱樂部なり合衆國上院の議員は英國の上院議員の如く威儀ありて落著き拂へり但し前者は上院に來りて仕事を爲すに非ず之が快樂の爲めにとて合衆國の供給したる樂しき物を樂みに來れるなり上院の中にては唯何事も遲く眞面目に儀式張りて恰も死せるものゝ如し怒を發するは勿論、少くにても活潑に動く議員は行儀を知らぬ者とて賤めらるゝなり左れば議員は良しと思ふ事を贊めず惡しと思ふ事を聽ても額に八字を顯さず何事を聽ても沈默し居らざる可らず成可くば無頓着の風を裝ふを以て最上の作法とし居れり斯る事の爲體なれば是が面白き故、上院の議事を聽かざる可らずと云ふ點は一ツもなし議員の口跡は一々禮に縛られて聽聞者を悅ばす氣焰なし扨議場として見れば右の次第なれども俱樂部としては世界中にこれ程快樂と便利とを極めたる處はなかる可し新任議員は爰に來りて試みに我が欲する所を爲して見る可し六箇月の後に至るとも或は議院內の便利を發見し盡すに足らざることならん議員の机は名木の研き上げたるを以て造りペン軸やインキ壺は數多く又書き物の用に供する紙抔は無盡藏なり机の中には奇麗に製本したる合衆國の憲法と上院議場必携と國會議員宿處姓名錄とを入れたり又椅子は各議員が二十の見本の中より自ら撰びて新調するものにして之を造る者は上院へ御出入の指物師なり若し又議員が咽の乾くことあらん事唯手を拍てば屬從の來るあり氷水にても「冷き茶」にても上院附屬の料理屋より携へ來る可し但「冷き茶」と云ふ言葉ワシントン府にては能く知れたりと雖も外國人には分り憎からんと思ひ其意味を爰に記さんに此語の中には一切の酒類を含みたり禮儀正しきを自慢とする議員は上院入口の外套を置く室にて酒を飲むこと甚だ稀なり但し小瓶に貯へたる「私有の資」は此限に非ず然るに悠長なる上院議員も時々には大急に來院して髭を剃る暇さへなかりしことゝ見え穢らしき顏

して委員會に列する
ち上院附屬の理髮店に
り落すなり爰には四人
居るありて其後ろの棚に
狹きまで並べたり平
上院議員の爲めのみに
（for Senetors.）との揭示
る侍者ありて議員閣下
黒人の子供は閣下の
ひ落さんと刷毛箒以て
髮店は人民の租稅中と
ー及びキナエンの丸藥
の爲めに用いたるか明
貴重なる花客の髭を剃
一大事なりと心氣を
りとは誰知らぬ者もな
風呂さへ備りて奢を極
の勝手に入浴するもの
揉みて與れる黒人の
り議員は若し之を好
し夫れのみならず日
にも來りて無賃の理

○熊本縣下の赤痢病
病は目下益々蔓延の
等尠からざる由なる
員緒方醫學博士及び
手の兩氏は一兩日前

○日本待賓會 外國
社佛閣を尋ねて美術
し近來は名所古跡の
く何れのホテルも客
人の渡來するもの多
層外人の便益を圖り
報に記載する處あり
吏中外人接待に關係
ものを與し本邦漫遊
介を爲し或は通辨人
者の便利を圖る計畫

○黃檗宗大本山住職
なる萬福寺住職の補
の僧侶廿六名中より
九月二十一日に開票
投撰を行ふ筈なるを
し居る模樣なりと云

○拓殖振興會の開會
起設立したる殖民議
め今度同道各地の商
來集するを好機とし
全道に於ける諸般の
出す見込なりと云ふ

○東北民黨の大會
日を期し陸中盛岡に
備中なりと

○會津の三團體合同
進自由井に山川將軍
も民黨主義を執る居
し之に反對する黨派